

## 「全鍍連」 2023年 9月号 若者から一言

四国鍍金工業組合 青年部 会長 小松 和弘 (有)梅田 代表取締役社長)

「やる気と元気が取り柄！小松でございます！」



猛威をふるっていたコロナも少しずつ収束の方向に向かっており人の流れの規制も緩和、高知県に関しましては「よさこい祭り」が4年振りに通常開催されようとしております。

私は2008年に四国鍍金組合青年部へ入会させていただきました。当時は周りから言われるがままに入会したので必要最低限の定例会や総会のみ出席して、終了後は懇親会にも参加せず帰宅しておりました。

恥ずかしながら私自身「目の前に仕事があるんだからそれだけやればいいじゃないか！」今考えるとアホ丸出しな考え方を真面目にしていた時期もありました。私の会社自体、家内工業で考えも閉鎖的だったよう思えますし、今でもつい狭い考え方になってしまう事は多々あります。そんな中青年部会の勉強会や工場見学通じて親しくなれたメンバーとの繋がりによって考え方の修正などができたように思えます。青年部という立ち位置だからこそ築ける関係性、無駄な話もあるかもしれないけれど、そこがあったからこそ分からないことがあれば聞ける、相談できるような関係性だと思います。得た知識や意見が自分と会社のプラスになっている実感があります。

組合単位の会だけでは得られない価値観や考え方に触れる事で自分自身の成長に繋がる。私にとってはその場所が四国鍍金工業組合青年部だと実感しています。

本年4月より四国鍍金工業組合 青年部 会長に就任させていただきました。分からない事ばかりで不安もあります。しかし、勝手ながらこのような経験をさせていただける事はチャンスだとも思っている次第です。前会長の武田央佳氏をはじめ、四青会皆様の協力をお願いしつつ全力で取り組んで参りますのでよろしくお願い致します。

四国の現状としましては全国同様に電気料金の値上げの深刻さ、自社においても25%の値上がりが見込まれます。聞く話によると以降10年は下がる事はないし、むしろまだ値上がるのではとの声も聞かれます。材料費、運送費の値上がりなど避けては通れない問題が多く、また年々厳しくなっていく環境への配慮による排水基準の見直しや安全対策の強化義務、設備の老朽化による設備投資負担、海外競争力の強化も課題となっています。めっき業界全体に独自の技術開発や高品質なサービス提供、コスト削減の取り組みなどが今まで以上に求められて来るように思えます。

必然的に単価値上げ交渉において重要になってくるのは高い品質のサービス提供ができているかはもちろんスピーディな対応ができるか、よりよい提案や相談ができるワークパートナーになれるかだと思います。あたりまえのようで、会社においてそれが成り立つには様々な事の積み重ねの上で初めて成り立つものと考えます。

コスト問題、環境問題、人材不足等々と考えるだけで目をそらしたくなる課題ばかりではありますが、これらを少しでも改善できないのは自分の視野が狭いのと行動力が足りないだけだと反省を繰り返しながら現在に至る次第です。

ここ数年はコロナ渦の真っ只中という事もあり全国的に身動きがとりづらい状況にありました。四青会としての活動も少なくなっており歯痒い思いをしていた次第ですが今後は活発に活動出来る年になるのではないかと期待しております。活動内容に関しては主に勉強会、工場見学、意見交換などを中心に各社のメリットに少しでも繋がるような意義のあるも

のにしていきたい所存です。

個人的には趣味で釣り、BBQを毎週単位で個人開催しておりますのでコチラの方も、ぜひ活動に生かせるいいなと思っております。